

令和4年度第1回四万十市産業振興計画フォローアップ委員会 議事概要

- 日 時 : 令和4年10月28日(金) 14:00~16:15
- 場 所 : 市役所本庁舎3階 防災対策室
- 出席者 : 20名
- 配付資料:【資料1】産業振興計画フォローアップ委員会資料
【資料2】産業振興計画アクションプラン進捗管理シート
【資料3】産業振興計画KPI一覧(Ver.2)

<結果概要>

1 開会(14:00)

2 会議成立報告

欠席委員の紹介をし、委員25名中20名の出席があり、会議が成立していることを報告

3 委員長及び副委員長の選任について

委員長に岡村委員、副委員長に佐田委員を選任

4 協議事項(14:10)

(1) 四万十市産業振興計画(上半期)の進捗管理について

1) 四万十市の人口状況等について

事務局から資料1により、四万十市の人口と人口動態等について説明

<<質疑>>

特になし

2) 四万十市の産業状況等について

事務局から資料1により、産業の状況や産業に係る新型コロナウイルス感染症対策等について説明

<<質疑>>

(委員長)

産業状況等について、補足や実感などを少しご紹介いただければと思います。四万十市や地域でのデータから現状についてどういった状況なのか、先ゆく新しい情報などご紹介できるようであればお願いしたいところです。

【四万十市の求人状況について】

(A委員)

私の方で関係するところでいえば雇用状況、有効求人倍率などになりますが、本日最新の発表がありまして、ハローワーク四万十所管内の有効求人倍率は0.99となっています。求人の状況について申しますと、コロナの影響により各企業とも雇用維持のために休業されている場合においては休業手当が本来発生するわけですが、その雇用維持にかかる休業手当の支給に対する助成制度として雇用調整助成金がありますが、この利用状況については、ピーク時の約300社から現在はその1/3程度となっており、こうした状況からするとコロナの影響は、

だんだんと収まってきたのかなという感じで受け止めています。

ただ今後注視すべきところは円安の影響による物価高などが、企業にどのように影響してくるのかをさらに注視しているような状況です。

(委員長)

その他いかがでしょうか。(他の委員からは特になし)

3) 令和4年度上半期の各産業分野の動きについて

事務局から資料1及び資料2、資料3により、これまでの取組み等について説明

《質疑》

(委員長)

ここで、まず農業分野、林業分野、水産業分野からのご質問、ご意見をいただき、そのあとで商工業、観光、そして全体を通してのご意見等をいただければと思います。

【漁場環境の調査、改善について】

(B委員)

水産業について、ここ近年下流漁協の主であるスジアオノリ、アオサノリが非常に厳しい状況が続いています。もう少し漁が良ければ、計画にある目標数値にも貢献できると思うのですが、ここ2、3年は全く振るわない状況になっています。

西部漁協のほうで現在やられている河川の調査などは、今やらないと手遅れになるというような気持ちで取り組まれていると思いますが、それは私ども下流漁協も同じ思いだと思いますので、ぜひ市としても、下流域の主に砂州の影響等についても、もう少し熱を入れてやっていただきたいところですが、そこら辺についてどのようなお考えかをお聞きしたいです。

もう少しアオノリやアオサが獲れてくれれば、少しでも産業振興に対して何か貢献できる場所も増えると思うので、ぜひ河口域の環境調査、改善について、お考えがあれば意見を聞かせてください。

(委員長)

砂州の影響といったお話がありましたが、何か取り組まれている、あるいはご検討中のものなどありましたらご回答をお願いできればと思います。

(農林水産課長)

下流漁協からご意見がありましたが、基本的には下流漁協、西部漁協などを含む四万十川漁業振興協議会という組織がございますので、そこで専門的なことは話をして、できることから始めていきたいと思っています。ただ全部が全部、行政ができることではないですので、そこはまた各漁協と一緒にあって対策をとらせていただきたいと思います。

(委員長)

B委員よろしいでしょうか。ぜひ意見交換していただきながらできることを考えていただければと思います。

(B委員)

資料3で令和6年の目標値が出ているが、今、正直言うとそこまで先を見るような余裕がないのが現実なので、可能であればもっと早急にいろんなことを考えていただきたいと思います。これは、意見として付け加えさせていただきます。

(委員長)

ぜひ早急に意見交換をしていただいで互いにできることを考えていただき、危機感をもってご対応いただくことだと思います。

その他いかがでしょうか。

【拠点となる直販所の状況について】

(C委員)

情報提供させていただきますと、資料3の3個別目標値の1農業分野のNo.16 農林水産等直販所販売額について、先ほど事務局から令和元年から令和2年にかけて落ち込みがあり、その要因としてコロナの影響ではという話がありました。この資料には令和3年の数値が入っておりませんが、JA高知県としましては、四万十市との合築構想ということで右山地区の新しいまちづくりの一環として、農業分野だけではなく市との協働により活力を失いつつある同地区をもう少し元気にさせようという一連の中で、令和3年4月10日に公民館跡地に新たに直販所をオープンしております。

令和2年度の旧店舗のときと令和3年度の新しい直販所のものと比べますと、売上については非常に伸びており、毎日の来店者もかなり多くなりまして、レジ通過者数で、一日約千人の方に来店していただきまして、直販部門だけで3億円を超える売り上げがあります。店全体でいえば4億円を超える内容になっていまして、これも市といろいろ協議をしながら、我々としては公民館跡地の道路（国道）に面したところで新しい直販所をオープンしたいということで、これは国の中山間地域所得向上支援対策事業も導入しながらそういう店舗をつくりましたが、今のところおかげ様で好評を得られています。

ご利用、ご来店いただいでおります委員の方も多くいらっしゃると思いますが、こうした取り組みも市と農業分野の連携で行っておりますので、本日もご出席の様々な分野の方と我々農業分野も連携する意思がありますので、お声をかけていただきますと、一緒に四万十市を盛り上げていきたいと考えていますのでよろしくお願いいたします。

(委員長)

ぜひお気軽にお声がけいただきたいと思います。ちなみに直販所の売上というのは地元の方が支えているものなのか、それとも観光需要とかあるのでしょうか。

(C委員)

8割が地元の方で、観光はそれほどないです。最近、ゴールデンウィークとか盆の時期になると道の駅や直販所とかはすごく人気があり、県外ナンバーの車がいっぱい来ます。ただ観光については年間の売上からすると2割とか3割くらいと辛く見えています。

(委員長)

次に商工業、観光分野のご意見等をお願いできればと思いますが、いかがでしょうか。

【最近の観光客の動向について】

(D委員)

資料3の3個別目標値の5観光分野について、補足の説明をさせていただきます。直近傾向の矢印が下がっているNo.4のレンタサイクル利用者数とNo.10二次交通利用者数、No.11外国人観光入込客数についてですが、先ほど事務局からコロナの影響で落ち込んでいるとの説明がありました。

ただここに来て、観光協会の窓口に来られる観光客の客層というのが少しずつ変わってきた実感があり、インバウンドの方も少しずつ増えてきている状況です。例えば9月のインバ

ウンドは10名という状況でしたが、10月は本日時点で42名になっていますし、観光に関するお問い合わせの件数も先月に比べて100件近く増えている状況です。

したがって今後は、レンタサイクル利用者数や二次交通利用者数、外国人観光入込客数の直近傾向が変わってくるのではないかと現場にいて感じているところです。

【商店街の現状と課題について】

(E委員)

商店街の現状についてですが、通行量調査については昨年度約4,700人/日となっており、今年も同様の調査を12月に行うわけですが、この昨年の数字を維持できるものか、皆さん街を歩いてもらったらわかると思うのですが、本当に人が歩いていません。

コロナの関係上、外出が制限されるようになると皆さんはネットで物を買うようになり、それに慣れてしまっていて外出制限が解除されてからも、街に人は出ずネットで物を買っていますので、地元での消費機会は減っていきます。先ほどのJA直販所の話でも野菜などは地元の方が買われているとのことでしたが、ほとんどの物品などはネットで買われており、そのことを商店街の物販の方たちは心配されており、それが影響し商店街の総売上も落ちてくるのではないかなど次の調査結果に対してすごく心配しています。

そしてもう一点は、この資料にあるとおり新規の出店者がある一方で、その数以上に閉店されている方がいます。これは、ただ売れないからといった閉店ではなく店主がお年を召され、後を継ぐ次の世代がいないといった状況のもので、現在、金融機関のほうでもこうした継承の問題で取り組んでいただいておりますが、そうした店主は、そこまでしてまでという方たちもいましてなかなか厳しい状態が続いていますので、令和4年度の統計の結果として厳しい数字が出るのではないかと心配しています。

(委員長)

観光では今まで台湾からのインバウンドなど多かったと思うのですが、緩和によりまして日本に来られる観光客の方も増えることが期待されており、下半期には、そうした動きが活発になるのではないかと思いますし、商店街の次の調査結果がどうなるか、非常に重要になってきます。

いずれにしても、ぜひ行政の皆様、そして関係者の皆様もしっかりと現状に目を向けていただいて、次の一手をなるべく早く打っていただくことをお願いします。

この他いかがでしょうか。もしなければ時間が差し迫っていますので、次の議題に移って最後に全体通してご意見等承りたいと思います。

5 高知県関西・高知経済連携強化戦略について (15:50)

F委員 (高知県産業振興推進部地域産業振興監) より資料に基づき説明。

《質疑》

(G委員)

関西圏のアンテナショップの説明がありましたが、東京のアンテナショップの位置づけはどうか。

(F委員)

東京、首都圏のほうもしっかりやりつつ、関西が高知から比較的近いということ、また知事が以前大阪府副知事をやられた経験も生かしながら、関西と首都圏両方もしっかりと取

り組んでいくというもので、ご協力をお願いできればと思います。

(G委員)

東京の方ですが、例えば高知県の方々が東京でそういうこと（アンテナショップ）をしていただいていることで非常に貢献ができていてというような成果は表れているのですか。

(F委員)

そのことについては本日持ち合わせておらず申し訳ありません。東京の状況については、県庁本課に問い合わせまして、この委員会の事務局を通じてお返しできれば、後日ご紹介できたらと思いますのでよろしくお願いします。

(この質問は、東京での経験を踏まえ関西ではしっかり取り組んでほしいという主旨からのもので、東京の状況について、あらためて回答する必要はないことを会議終了後確認)

(G委員)

私は西部漁協の組合長ですが、四万十川の鮎やエビ、カニなどを扱っており、東京に送ったりして、そういう店で販売をしていくことについては、難しいハードルがあって、なかなか販売には至っていないということになっています。

東京の市場にも活魚で送ったりするのですが、本日の資料にもあるように東京の市場へ送っても、そのことが西部漁協鮎市場として利益が上がるかといえばそうとはなりません。ただ送ることによって皆さんに四万十川の鮎ということで生きた鮎を見ていただくといったことはありますが、そうした取り組みが今後の横のつながりやいろんな方面に繋がっていくかといえば、そうはなっていません。

なかなか販路にすることは難しいというようなことがありますから、私はこの委員会においても何が足りないのか、何をしなくてはならないのか。

例えば、私にとって今一番大事なこと、この四万十市で一番大事なことは、四万十川だと思っています。四万十川が落ち込んでしまったら、いろんなところも落ち込んでしまうのではないかというように思っています。

先ほど下流漁協の組合長から意見も出ましたが、上流からの濁りが下流にくるためにノリができなくなっているのではないかと、今現在はゼロに近い。上流においても鮎が獲れてもなかなかウナギが獲れない、エビが獲れないといった、そういうようなところがあり意見交換会をしてその川の対策をするなど、いま仁淀川がブームになって、仁淀、仁淀と言われていまずけど川の実態は皆同じだと思います。どこの川も環境が崩れてきており、これをどういうふうに治すかということが、本当は高知県にとって一番大事なことではないかと思っています。

やっぱりそれを一番先にさせていただいて、その次のステップとして「あゆ王国高知振興ビジョン」のほうで非常に提案をいただきながら進めていただいています。このあいだもビジョンの関係で日曜市やひろめ市場に出させてもらえないか、少しずつ販路を広げていきたいというような話を県庁でもしたのですが、途中まではいくが、そこからは話が止まってしまふといった状況になっています。

やはり「あゆ王国高知振興ビジョン」を進めていただく中、四万十川のものをそういうことで生かしていただくということであれば、農業部門とか林業部門とか何の部門でもそうだが、一番根本的なこと、何を今一番先にしなくてはならないかということをお話し合うことだと思います。一生懸命つくっても、やっても、自分たちの収入にはならない、何にもならないということが起きるようではいけないわけですから。西部漁協西土佐鮎市場では、一番多く取る人は7カ月で150万円くらいの収入があり、平均月額としたら20万円ほどの給料とい

うことになるのですが、川の環境が悪くなるから年々その額が落ちていっています。そういうことになれば我々にも責任があります。こうしたことを訴えていくときに、皆が真剣に捉えて、そうすればそういうことをこういうふうにやっていくかというようなことになることがこの委員会ではないかと思しますので、ぜひこうしたことをご検討していただきながら今後進めていただきたいと思います。

関西戦略も大事なことだと思いますけど、東京で販売など成果につながっていないことは、今後関西で同じことを繰り返さないように、東京で成果が出ていないことについては、関西ではこういうやり方をするというような戦略を立てていただきたいと思います。

(委員長)

総合力で勝負をとということだと思いますし、足元をしっかりと見て、ぜひ連携をお願いできればと思います。

大阪での戦略をご紹介いただきましたが、私のほうでは現在幡多地域のウェブサイトの分析をやっています、その中ではどこの地域の人がそのサイトを見ているのかわかるようになっていきます。日常的に見られているのは、一番は高知市、二番が大阪で、東京ではないのです。

ゴールデンウィークや8月とか旅行の繁忙期のときには東京からのシェアがぐっと上がる状態となりますが、日常的によくお付き合いしているのは、実は高知市や大阪ということになりますので、今回の関西戦略に関しましても、ぜひ長い目で見ていただき連携を考えていただければと思います。

来年度からイベント出展が始まるということですが、イベントだけではなく、その後には長いお付き合いがあることなど長期的な視点で捉え連携を考えていただきたいと思います。

6 その他 (16:10)

(委員長)

最後に全体通しましてご意見等ありましたお受けしたいと思います。(委員から特になし)事務局から何かありませんか。

(事務局)

本日は長時間にわたってありがとうございます。このフォローアップ委員会は年2回開催しておりまして、下半期の会議は、令和5年3月下旬を予定しておりますので、本日同様皆様には大変ご足労おかけしますが、ご案内の文書等も送らせていただきますので、その際はぜひよろしくお願いたします。

(委員長)

副市長にもお越しいただいておりせっかくの機会ですので、一言いただければと思います。そのあと副委員長に閉会のご挨拶をいただいて会議を終了とさせていただきます。

(副市長)

私からコメントを二点ほどさせていただきます。

一点目は上半期に東京出張の機会を利用してイトーヨーカドー（東京江東区）で開催されていました高知物産展を視察しましたが、現地で直接お聞きした反響として、そのフェアの全商品の中の売上トップ3をすべて四万十市産のお酒が占めているということをお聞きし、私としてもあらためて四万十産というブランド、その知名度が高いということを感じました。

二点目は、G委員から話がありましたが、川のなかで石を動かすという事業で、高知工科大学や中村河川国道事務所とも連携し、少し新たな取組をやってみようということで、私としても興味深く思っています。

産業振興というのは非常に大事な分野だと思いますので、今後においても私として注意深く捉え、積極的に関われるところは関わっていきたいですし、応援していきたいと思っています。

(副委員長)

皆様から様々なご意見をいただきありがとうございます。こうした意見をすぐに吸い上げ実行に移すといったことが一番大事なことであり、今後の活動にぜひ取り入れていただき、またその形をつくり上げていくといったことの繰り返しだと思っています。

せひともこの四万十市がより良いまちとなり、この幡多地域で一番のまちになれるようにこの産業振興計画の方も進めていきたいと思っていますので、今後とも皆様にはご協力いただきたいと思っています。本日はありがとうございました。

7 閉会 (16:15)